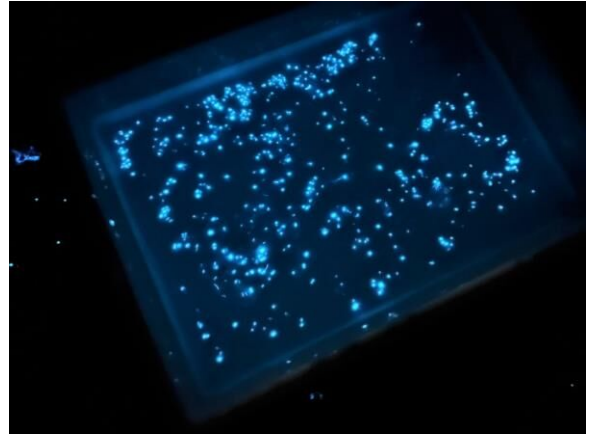


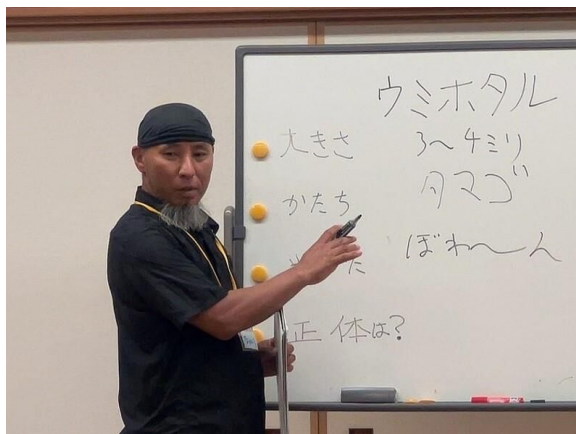
ウミホタル観察講座（観音寺市会場） 開催しました！



- 日時 令和5年8月19日(土)19:00～21:00
- 場所 室本公民館、室本港(観音寺市室本町)
- 講師 中野 耕治 氏 (かがわ里海ガイド)
- 講師アシスタント 岡 加依子 氏 (かがわ里海ガイド)
片岡 裕子 氏 (かがわ里海ガイド)

8月19日(土)、室本公民館及び室本港にて、ウミホタル観察講座を開催し、子どもと保護者あわせて29名が受講しました。

初めに、ウミホタルについて夜光虫との違いについて解説して頂きました。ウミホタルと夜光虫は混同されがちですが、全く異なる生き物なのでそれぞれの光り方にも特徴があるそうです。ウミホタルは体長3～4mmほどの大きさで、エビやカニと同じ甲殻類に分類され、危険を感じたり、刺激を受けたりすると口から発光物質と酵素を吐き出し、海中の酸素と反応して光るそうです。そのため1回光るとしばらく青白い光が残り続けるそうです。一方、夜光虫は1～1.5mmほどの大きさで、植物プランクトンに分類され、発光物質が細胞内部で光り、体外へ出ることがないためパッと光るように見えると説明がありました。解説の後、ウミホタルの観察場所へ移動しました。



海岸に到着後、子どもたちはライフジャケットを着用しました。子どもの体の大きさにあったライフジャケットを選び、股下のベルトなど正しく着用できているか保護者が確認しました。また、万が一海に落ちてしまったら大の字になって顔を水面から出して助けを待つことや、大人も助けに行く時は必ずライフジャケットを着用することなど、夜の海岸での安全対策についての説明がありました。そして、受講者は事前に作製したペットボトル製の採集装置の中に石とエサと海水を入れ、採集装置の仕上げを行いました。



①重りとなる石を入れます



②餌となるちくわを入れる様子



③仕上げに海水を入れます

採集装置のヒモの端っこを離さないように握り、ゆっくりと海に沈めました。そして10分ほど経った後、採集装置を引き上げると採集装置が青白く光っていました。暗い場所へ移動し、採集装置の中の海水を勢いよくパレットに移し替えるとウミホタルがいっせいに発光し、受講者から歓声が上がりました。受講者はウミホタルを手のひらにのせて触ったり、写真を撮るなど発光現象を楽しんでいる様子でした。観察後、ウミホタルをみんなで海に戻しました。



室本公民館へ戻り、まとめと振り返りを行いました。今回の調査では多くのウミホタルが観察できました。ウミホタルは4月～10月頃まで見られるそうで、エサや採集容器を変えて色々な場所で観察して欲しいとお話がありました。受講者からは「初めてウミホタルを見て感動した」、「親子で楽しめた」、「海を綺麗にすることも気を付けたい」などの感想が寄せられ、豊かな海を守るために自分自身の生活を振り返るきっかけとなる講座となりました。